

第5章 医学部附属病院

資料1 附属病院の使命と目標

弘前大学医学部附属病院の使命

『弘前大学医学部附属病院の使命は、生命倫理に基づいた最先端の医療、医学教育 及び研究を実践し、患者の心身に健康と希望をもたらすことにより、地域社会に貢献することである。』

弘前大学医学部附属病院の目標

弘前大学医学部附属病院の第3期中期目標・中期計画（2016年度～2021年度）は次のとおりである。

1. 高度急性期病院として、地域医療機関等との連携を強化し、質の高い医療を提供する。
 - (1) 各診療部門特有の診療機能に関するクオリティ・インディケータ（医療の質に関する指標）を新たに設定し、安心・安全で質の高い医療を提供する。
 - (2) 高度急性期病院としての役割を踏まえ、地域医療機関、地方公共団体等との連携を強化し、地域におけるがん及び脳卒中等の医療課題に積極的に取り組む。
 - (3) 被ばく医療及び高度救命救急医療の中核的役割を担うとともに、災害医療においては、地域の防災訓練に指導・助言するなど積極的に参画する。
2. 専門性及び国際性を備えた優れた医療人を養成する。
 - (1) 地域と連携した専門医養成体制の充実・強化を図るため、「医師キャリア形成支援センター」（仮称）を設置し、高度医療を提供できる

専門医を養成する。

- (2) 医療人の専門性、国際性の向上及び臨床現場への定着、復帰支援のため、「総合臨床教育センター」（仮称）を設置し、教育・研修体制を充実する。

3. 臨床に根ざした先進的医療技術等の研究・開発に取り組む。

臨床試験管理センターに生物統計専門家等を配置し、臨床研究及び臨床試験の支援体制を強化する。英語研究論文年間 140 編以上とする。

4. 教育・研究・診療機能の充実及び療養・労働環境の改善を図る。

国の財政状況等を踏まえ、老朽化した病棟の改修計画を進める。さらに、医療機器等をマスタープランに則り計画的に更新し基盤整備を行う。

資料2 配置図 (H30.7.1)

高度救命救急センター (平成22年完成)		中央診療棟 (平成11年完成)		外来診療棟 (平成19年完成)		第二病棟 (平成4年完成)		第一病棟 (平成元年完成)	
						9F	機 械 室	9F	機 械 室
						8F	神 經 科 精 神 科	8F	消 化 器 内 科 血 液 内 科 腫 瘍 内 科
						7F	眼 整 形 外 科 リハビリテーション科	7F	循 環 器 内 科 心 臓 血 管 外 科
						6F	空 調 機 械 室 - 1 空 調 機 械 室 - 2 ハ リ ポ ー ト	6F	内 分 泌 内 科 糖 尿 病 代 謝 内 科 感 染 症 内 科 呼 吸 器 内 科
						5F	手 術 部	5F	呼 吸 器 外 科 感 染 症 科 腎 臓 器 内 科
						4F	血 液 浄 化 療 法 室 集 中 治 療 部 強 力 化 学 療 法 室 高 圧 酸 素 治 療 室	4F	消 化 器 外 科 乳 腺 外 科 小 児 外 科
						3F	材 料 部 周 産 母 子 セ ン タ ー (NICU, GCU)	3F	小 児 科
						2F	救 命 救 急 病 棟 (B C U) (熱 傷 室, 浴 室)	2F	皮 膚 科 放 射 線 治 療 科
						1F	救 命 救 急 外 来 (時 間 外 受 付)	1F	栄 養 管 理 部 厨 房
						1F	検 査 部 病 理 部 医 療 安 全 推 進 室	1F	放 射 線 部 (放 射 線 検 査 室)
						1F	神 經 科 精 神 科 眼 科, 耳 鼻 咽 喉 科 麻 酔 科, 脳 神 經 外 科 歯 科 口 腔 外 科 が ん サ ロ ン	1F	中 央 待 合 ホ ー ル 腫 瘍 内 科, 整 形 外 科 綜 合 診 療 部 薬 剤 部, 事 務 部 綜 合 患 者 支 援 セ ン タ ー
						4F	耳 鼻 咽 喉 科 麻 酔 科 救 急 科 歯 科 口 腔 外 科	4F	リハビリテーション科 リハビリテーション部 栄 養 指 導 室 げ ん き 図 書 館 サービスクーナー
						3F	外 科, 泌 尿 器 科 小 児 科, 小 児 外 科 産 科 婦 人 科 外 来 化 学 療 法 室 臨 床 工 学 部	3F	産 科 婦 人 科 消 化 器 外 科 乳 腺 外 科
						2F	内 皮 膚 科, 形 成 外 科 光 学 医 療 診 療 部 輸 血 部 感 染 制 御 セ ン タ ー	2F	整 形 外 科
						2F	検 査 部 病 理 部 医 療 安 全 推 進 室	2F	皮 膚 科 放 射 線 治 療 科
						1F	放 射 線 部 (放 射 線 検 査 室)	1F	栄 養 管 理 部 厨 房
						1F	中 央 待 合 ホ ー ル 腫 瘍 内 科, 整 形 外 科 綜 合 診 療 部 薬 剤 部, 事 務 部 綜 合 患 者 支 援 セ ン タ ー	1F	リハビリテーション科 リハビリテーション部 栄 養 指 導 室 げ ん き 図 書 館 サービスクーナー
						1F	内 皮 膚 科, 形 成 外 科 光 学 医 療 診 療 部 輸 血 部 感 染 制 御 セ ン タ ー	1F	整 形 外 科
						1F	救 命 救 急 外 来 (緊 急 被 ば く 医 療 対 応)	1F	栄 養 管 理 部 厨 房
						B1F	放 射 線 部 (核 医 学 検 査 室) MRI 検 査 室 R I 病 棟	B1F	病 理 部 医 療 情 報 部 看 護 部 研 修 室
						B1F	放 射 線 治 療 科 放 射 線 診 断 科 医 療 情 報 部, 薬 剤 部 臨 床 試 験 管 理 セ ン タ ー 中 央 カ ル テ 庫	B1F	機 械 室 電 気 室
						B2F	機 械 室 電 配 管 ト レ ン チ	B2F	機 械 室 電 配 管 ト レ ン チ
						B2F	機 械 室 電 配 管 ト レ ン チ	B2F	機 械 室 電 配 管 ト レ ン チ

(平成30年7月1日現在)

資料3 施設整備の内訳（財投 H20-H29）

年 度	機 器 名	部 署
平成21年度	高度救命救急高次治療システム	高度救命救急センター
平成21年度	重症患者生体情報監視装置	各科共通
平成23年度	マルチスライス型C T撮影装置	放射線部
平成24年度	光学医療内視鏡システム	光学医療診療部
平成24年度	C T併用血管撮影装置	放射線部
平成25年度	心臓血管治療装置	放射線部
平成25年度	診断用X線装置	放射線部
平成26年度	心臓血管治療装置	放射線部
平成26年度	診断用X線装置	放射線部
平成26年度	小線源放射線治療システム	放射線部
平成27年度	密封小線源治療システム	放射線部
平成28年度	手術支援システム	手術部

資料4 病院長からの一言～附属病院高度救命救急センター 開設式典～（南塘だより）

病院長からの一言

～附属病院高度救命救急センター開設式典～

南塘だより 第58号 2010年（平成22年）6月24日

弘前大学医学部附属病院「高度救命救急センター（以下センター）」は平成22年3月末日ついに竣工日を迎えました。平成21年8月7日に着工を開始、わずか8カ月の突貫工事でした。この間、患者さん、職員、関係者の皆様には有形無形にご不便をおかけしたことをお詫び申し上げます。職員一同にとりましては、竣工の喜びとともに緊張と不安が入り混じる複雑な心境にあります。実際にセンターを預かる、浅利靖センター長、花田裕之副センター長、樋口三枝子看護師長を中心とするセンタースタッフのキビキビした活発な姿をみると頼もしさから不安は払拭されます。センターの見学会は、まず4月8日遠藤学長を始めとする役員に始まり、院内では4月19～20日のオープンルームが先駆けて行われました。5月13日には、センター設置関連者の皆様をお呼びしての盛大な記念式典がホテルニューキャッスルで行われました。当日は、文部科学省、関連大学、各界における代表者の方々を始め、青森県知事、弘前市長等のご臨席を賜りました。本センターの産みの親とも言える遠藤正彦学長からは設立の経緯あるいはご苦労話を伺え、格調の高い式典となりました。参加者は総勢約170名程、そのうち150名が施設見学を希望されました。近代的設備を備えた本センターに関心が高かったことが伺えました。本センターは、救急センターのなかった津軽医療圏の中で、休むことなく3次救急を受け入れることとなります。附属病院も診療機能の面から大きく様変わりすることとなります。本センターには2つの大きな特徴があります。ひとつは、本県で唯一の「高度」救命救急センターであること。いまひとつは、遠藤正彦学長の強いご指導による「緊急被ば

く医療」の機能を併せ持つことです。外来診療棟の屋上に設置されるヘリポートは、下北半島のむつ総合病院とわずか30数分で結ばれます。近隣医療圏との距離はさらに短くなり、患者サービスは一段と向上することになりましょう。センターとしての開業は7月1日からです。本センターの設置を機会に救急専門医が育ち、地元にしっかり定着してくれることを願わずにはられません。

資料5 遠隔操作型内視鏡下手術システム「ダ・ヴィンチ」稼働（南塘だより）

遠隔操作型内視鏡下手術システム「ダ・ヴィンチ」稼働

南塘だより 第63号 2011年（平成23年）9月28日

平成23年7月14日、附属病院において遠隔操作型内視鏡下手術システム「ダ・ヴィンチ」を使用して第1例目の根治的前立腺全摘除術が行われました。手術は滞りなく進行し、出血量200ml、手術時間約5時間で手術が終了しました。第1例目ですので、すべての操作を慎重に確認しながら行ったため手術時間は通常の見視下小切開法より長くかかりましたが（小切開法は約2時間）、出血量は通常の見視下の約5分の1になりました（小切開法では平均900ml）。さらに驚くのは患者さんの回復の速さです。従来の小切開法では術後10日から2週間程度の入院を必要としていましたが、この患者さんは術後4日目の朝に元気に退院なさいました。続いて7月28日には第2例目、8月4日に3例目、8月25日4例目の手術が無事終了しました。2例目以降の手術時間は約3時間、出血量は各々、50ml、70ml、50mlでした。従来の1000ml前後の出血量に比べると格段の差があり、手術時間も徐々に小切開法に近づいてきました。

前立腺全摘除術の合併症として、出血と術後尿失禁は避けては通れないものとされていましたが、ダ・ヴィンチ手術では尿道括約筋を十分に

温存可能です。さらに、15倍拡大の3D画像で観察しながら繊細な操作が可能な関節を持つニードルドライバーで尿道膀胱吻合できます。その結果、出血は献血の半分で済み、術後の尿失禁もほぼ100%なくなります。

現在、米国でのダ・ヴィンチ前立腺全摘除術は1泊入院で実施されています。この究極の低侵襲手術を広く普及させ、多くの患者さんに十分な満足を提供できるよう、さらに精進していきたいと思っております。

ダ・ヴィンチを用いた手術は泌尿器系に限らず、消化器外科、婦人科、心臓外科など幅広い範囲に応用可能です。今後、国内においてもダ・ヴィンチ手術は急速に普及し、近い将来、これまで開腹手術で実施されてきた手術のほとんどがダ・ヴィンチで行われるものと予測されております。

ダ・ヴィンチ導入に賛同して頂きました花田病院長はじめ病院科長会の皆様、仕様策定委員会の皆様、導入に際し御尽力頂きました事務の皆様、手術場の皆様、麻酔科の皆様、そして泌尿器科のスタッフに改めて感謝申し上げます。

資料6 弘前大学医学部附属病院診療奨励賞（総務・広報担当）

○診療技術賞

第11回（2009年1月29日）

- ・「術創トラブルを解消する皮膚縫合法の工夫－患者満足度向上と材料費削減の効果－」

代表 泌尿器科 古家琢也

- ・「液状細胞診 (Liquid based cytology) の導入によるがん細胞、診断精度の向上」

代表 病理部 刀稱亀代志

第12回（2010.1.28）

- ・「もの忘れ外来および認知症ネットワークの確立」

代表 神経内科 瓦林毅

- ・「集中治療における呼吸管理へ経食道エコー法の導入と応用」

代表 集中治療部 橋場英二

第13回 (2011.1.27)

- ・「ベッドサイド細胞診導入による細胞診断の精度向上と患者負担の軽減」
代表 病理部 刀稱亀代志
- ・「臨床応用を目的とした「てんかん責任遺伝子診断用DNAチップ」」
代表 神経精神医学講座 菊池隆

第14回 (2012.1.25)

- ・「超音波診断装置画像配信システムの構築」
検査部 小島佳也
- ・「下部直腸癌患者に対する究極の肛門温存術式“内括約筋切除術”の貢献度」
代表 消化器外科 村田暁彦

第15回 (2013.1.31)

- ・「心電図モニター適正運用へ向けた取組：モニターアラームの現状とその対策」
代表 循環器内科 富田泰史

第16回 (2014.1.23)

- ・「糖尿病教育入院システムの構築」
代表 内分泌代謝内科 村上宏
- ・「当院のニーズから生まれた酸素流量計監視警報装置の開発」
代表 臨床工学部 後藤武

第17回 (2015.1.22)

- ・「妊娠高血圧症候群ならびに妊娠糖尿病罹患者に対する長期フォローアップ体制の構築」
代表 周産母子センター 田中幹二

第18回 (2016.1.27)

- ・「がん治療における口腔内合併症の緩和を目指した口腔ケア」
代表 歯科口腔外科 久保田耕世
- ・「希釈式自己血輸血の積極的運用の取り組み－過去30年間の実績と2016年度診療報酬保険収載を踏まえて－」
代表 手術部 北山眞任

第19回 (2017.1.19)

- ・「弘前大学医学部附属病院検査部生理検査室における平成25年度から平成28年度の超音波検査業務充実に向けての取り組み ～大学病院として相応しい意識改革・環境整備・人材教育・地域貢献～」

代表 検査部 一戸香都江

- ・「歩行スピードを取り組み入れた高齢者脆弱性(フレイル)評価法の確立」

代表 泌尿器科 畠山真吾

○心のふれあい賞

- 第11回「新外来棟における季節感を演出した患者サービス」

代表 医事課 岡崎耕衛

- 第13回「小児科病棟における成長・発達を促す遊びの場の提供」

代表 1病棟3階 松田和子

- 第14回「ストーマ・ケアから伝わるふれあいと情愛」

代表 1病棟4階 鎌田恵理子

- 第15回「固定用テープの手書きのイラストから伝わるやさしさと思いやり」

代表 1病棟3階 石川千鶴子

- 第16回「“楽しくためになる教室”『あなたにもできる足の手入れ』」

代表 1病棟6階 桜庭咲子

- 第17回「新生児の点滴実施後の安全のための取り組み」

代表 2病棟3階 GCU 成田幸子

- 「地域住民に対する肝臓病教室」

代表 肝疾患相談センター 遠藤哲

- 第18回「脊椎麻酔下で帝王切開を受ける患者様へのパンフレット作成」

代表 手術部 石田衣里

- 第19回「患者給食に選択メニューを取り入れて」

代表 栄養管理部 三上恵理

資料8 院内の各種委員会（総務・広報担当）

1	病院科長会	31	腫瘍センター運営委員会
2	病院運営会議	32	医薬品安全管理委員会
3	病院将来計画委員会	33	医療機器安全管理委員会
4	病院予算委員会	34	高度救命救急センター運営委員会
5	病院人事委員会	35	病理部運営委員会
6	経営戦略会議	36	児童虐待対応委員会
7	医療情報システム委員会	37	医療技術部運営委員会
8	クリティカルパス委員会	38	スキルアップセンター運営委員会
9	業務連絡会	39	臨床試験管理センター運営委員会
10	感染対策委員会	40	情報システム運用委員会
11	医療安全管理委員会	41	医療材料委員会
12	医療事故調査委員会	42	総合患者支援センター運営委員会
13	輸血療法委員会	43	感染制御センター運営委員会
14	薬事委員会	44	広報委員会
15	先進医療専門委員会	45	医療業務に係る役割分担推進検討委員会
16	栄養管理委員会	46	高度救命救急センター実務者委員会
17	褥瘡対策委員会	47	事故防止専門委員会
18	災害対策委員会	48	がん化学療法委員会
19	医療ガス安全管理委員会	49	診療奨励賞運営委員会
20	放射線安全委員会	50	診療奨励賞選考委員会
21	臓器移植検討委員会	51	医療事故等被災者支援委員会
22	医薬品等臨床研究審査委員会	52	検査部運営委員会
23	卒後臨床研修センター初期研修運営委員会	53	高難度新規医療技術評価委員会
24	臨床研修管理委員会	54	未承認新規医薬品医療機器等評価委員会
25	卒後臨床研修センター専門医研修運営委員会	55	整備推進専門委員会
26	歯科医師卒後臨床研修室運営委員会	56	手術部運営委員会
27	歯科医師臨床研修管理委員会	57	認定再生医療等委員会
28	診療環境向上推進委員会	58	監査委員会
29	診療情報提供委員会		
30	診療録管理委員会		

(平成30年6月1日現在)

資料9 院内の各種マニュアル

発行文書名	版数	初回登録日	改訂日
リスクマネジメントマニュアル	6	2003年2月1日	2015年6月3日
安全管理のための指針	10	2005年2月22日	2018年2月13日
麻薬施用マニュアル	6	2004年10月21日	2015年9月16日
針刺し等医療事故後のHIV感染防止のための予防服用マニュアル	3	2005年1月4日	2011年9月27日
針刺し等事故後対応マニュアル	2	2005年1月4日	2011年5月2日
検査のてびき	2	1999年11月30日	2005年7月26日
感染対策基本マニュアル	4	2005年10月12日	2015年3月30日
診療録等記載マニュアル	1	2005年10月28日	
インフルエンザ対応マニュアル	3	2005年12月20日	2014年10月10日
結核院内感染防止対策マニュアル	5	2006年4月11日	2016年2月23日
院内発生の食中毒対応マニュアル	2	2006年5月1日	2014年3月13日
弘前大学医学部附属病院における説明と同意(インフォームドコンセント)に関するガイドライン	1	2006年5月31日	
HIV等の血液伝搬ウイルス感染予防マニュアル	1	2006年6月28日	
レジオネラ感染症対応マニュアル	2	—	2006年7月21日
疥癬対応マニュアル	2	2006年7月21日	2011年2月23日
病院情報管理システム障害対処マニュアル	4	2006年8月1日	2016年8月1日
院内暴力対応マニュアル	1	2007年10月9日	
MRSA感染防止マニュアル	4	1992年11月1日	2007年11月1日
クリティカルパス作成手順	1	2008年2月28日	
静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症・肺動脈血栓塞栓症)の診断・治療・予防マニュアル	2	2003年10月1日	2008年10月1日
医療関連感染対策のための指針	4	2009年3月30日	2015年9月11日
中心静脈カテーテル挿入手技に関する安全指針	1	2009年10月1日	
人工呼吸器マニュアル	2	2010年8月3日	2013年3月4日
医薬品の業務に係る医療の安全を確保するための指針	3	2011年3月25日	2016年10月11日
治験実施要領(治験及び製造販売後臨床試験実施要領)	5	2012年4月4日	2017年4月1日
感染性胃腸炎対応マニュアル	1	2012年2月20日	
医療機器管理体制マニュアル	3	2008年10月1日	2017年8月28日
輸血マニュアル	2	2012年2月6日	2015年3月31日
脳死下臓器提供マニュアル	1	2012年3月14日	
児童虐待対応マニュアル	1	2012年3月14日	
経鼻胃管管理マニュアル	1	2012年8月8日	
CVポート運用マニュアル	2	2013年3月13日	2017年4月11日
ヘリポート運用マニュアル	3	2010年3月26日	2018年4月1日
カルテ電子化に伴う診療記録の基本的運用方針	2	2013年9月6日	2014年2月13日
カテーテル関連尿路感染予防マニュアル	1	2013年12月25日	
災害対策マニュアル	1	2014年1月8日	
宗教上の理由による輸血拒否への対応指針	1	2014年3月12日	
新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画	1	2015年3月30日	
証拠保全対応マニュアル	1	2015年2月4日	
中東呼吸器症候群(MERS)対応マニュアル	1	2015年7月9日	
接遇マニュアル	1	2015年7月8日	
高度救命救急センター受付業務マニュアル	2	2017年1月1日	
感染症診療および抗菌薬適正使用マニュアル	1	2017年4月12日	2018年4月1日
災害対策マニュアル	2	2014年1月8日	2017年6月14日
事業継続計画(BCP)	1	2018年3月5日	

(平成30年5月18日現在)

資料10 職員数推移

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
教員・医師 (定員)	91	108	115	122	122	126	133	140	136	141
非常勤医師	148	141	111	124	116	122	109	109	115	122
薬局 (薬剤部)	16	16	16	16	18	18	20	20	20	18
(非常勤他)	11	9	8	10	7	9	10	13	14	16
検査部 (検査部)	24	24	25	25	28	29	31	32	31	32
(非常勤他)	13	14	14	11	18	21	21	21	21	17
レントゲン (放射線部)	21	22	22	22	23	23	25	25	27	27
(非常勤他)	10	11	11	11	11	11	14	14	13	11
その他 (手術・救急・材料)	22	22	23	22	23	23	29	33	35	35
(非常勤他)	37	39	40	41	37	37	41	47	50	54
事務部 (定員)	65	66	69	66	66	63	66	65	63	70
(非常勤他)	20	20	34	33	23	24	43	50	54	54
看護師 (定員)	478	540	534	549	547	574	583	591	600	591
(非常勤他)	22	24	21	17	19	21	25	24	25	24
看護助手・補佐医員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護助手 (非常勤他)	22	22	21	22	24	22	22	23	34	45
計	717	798	804	822	827	856	887	906	912	914
	283	280	260	269	255	267	285	301	326	343

(各年度とも4月1日現在)

資料11 指標の推移

年 度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
病床数	618	636	636	636	636 (H25.8.1 644床)	644	644	644	644
外来患者数 (総数)	357,674	361,296	370,401	370,474	368,847	360,482	360,111	364,502	375,887
入院患者数 (総数)	194,636	196,616	194,669	192,027	193,351	190,419	196,773	192,057	193,846
外来患者数 (1日平均)	1,478.0	1,493.0	1,518.0	1,512.1	1,511.7	1,477.4	1,481.9	1,500.0	1,540.5
入院患者数 (1日平均)	533.2	538.7	531.9	526.1	529.7	521.7	537.6	526.2	531.1
附属病院収入額 (千円)	15,262,155	16,479,729	20,771,297	20,702,765	21,688,495	21,374,282	21,580,175	21,703,062	22,863,575
病床稼働率 (%)	86.3	84.8	83.6	82.7	82.6	81.0	83.5	81.7	82.5
平均在院日数	18.7	18.0	17.3	16.9	16.9	16.8	16.9	15.4	15.0
紹介率 (%)	81.0	85.4	87.9	80.5	81.8	91.2	91.7	92.3	91.6
院外処方率 (%)	90.4	90.4	91.6	91.0	90.9	91.9	91.4	92.2	92.2
救急患者数	3,363	4,033	4,371	4,600	4,668	4,661	4,306	4,476	5,055
手術件数	7,593	8,314	8,559	9,350	11,507	11,535	11,084	11,679	11,916
全身麻酔件数	3,820	3,889	3,742	3,758	3,797	3,902	3,752	3,833	3,911

資料12 外部資金（病院分）

区 分	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	件数	金額(千円)																		
科学研究費補助金	17	30,145	21	39,000	28	49,790	27	48,620	30	36,700	28	41,010	30	46,510	28	39,790	27	33,670	32	31,100
基礎研究(B)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
基礎研究(C)	8	14,040	9	15,080	13	19,370	15	23,530	17	19,400	10	15,340	12	19,890	11	14,950	10	11,200	16	16,800
挑戦的萌芽研究	1	700	-	-	-	-	2	3,900	3	3,200	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
挑戦的研究(萌芽)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
若手研究(A)	-	-	-	-	1	5,330	1	5,070	-	-	-	-	1	3,510	1	4,740	1	3,700	-	1,600
若手研究(B)	7	13,650	12	23,920	14	25,090	9	16,120	10	14,100	15	24,570	13	21,710	14	19,500	15	18,200	13	12,100
若手研究(スタートアップ)	1	1,755	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奨励研究	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1,100	4	1,400	2	600	1	570	2	600
厚生労働省科学研究費補助金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
補助金	3	18,301	7	768,888	15	552,592	18	489,556	19	572,350	20	455,545	20	242,626	18	199,016	17	180,051	17	176,944
寄附金	63	44,334	56	23,379	60	29,688	68	199,589	50	19,941	45	17,053	35	27,084	47	38,166	46	40,091	45	34,227
受託研究費	81	89,953	131	130,956	110	74,042	118	67,063	122	101,682	65	104,566	71	62,887	91	90,875	105	124,220	119	147,296
民間等との共同研究	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2,722	1	540
受託事業費	184	10,314	184	8,867	181	10,615	721	16,439	908	18,486	28	17,808	34	31,871	36	17,540	37	21,327	37	17,688
合 計	348	193,047	399	971,090	394	716,727	952	821,267	1,129	749,159	186	635,982	190	410,978	220	385,387	233	402,081	251	407,795

資料13 自己点検評価と評価基準（総務・広報担当）

自己点検評価における評価基準(5段階評価)

5 著名に改善した	2	やや後退した
4 改善した	1	後退した
3 不変		

1. 診療実績

1) 外来診療

項目 診療科	外来患者数		紹介率 (%)	院外処方箋発行率 (%)	稼動額 (千円)	評価 1 2 3 4 5
	外来患者 延数	一日平均 (243日)				

2) 入院診療

項目 診療科	入院患者数		病床稼働率 (%)	平均在院 日数 (日)	審査 減点率 (%)	稼動額 (千円)	評価 1 2 3 4 5
	入院患者 延数	一日平均 (365日)					

2. 診療技術

項目 診療科	診療技術の 向上	特定機能病院 としての機能	先進医療	患者サービス	クリニカルパス の利用	リスクマネジメント の取組	評価 1 2 3 4 5

3. 社会的活動

項目 診療科	健康診断	巡回診療	地域医療・ コメディカルスタッフ の生涯学習教育	地域医療との 連携	評価 1 2 3 4 5

4. その他

項目 診療科	専門医の 取得数 (人)	研修医の 受入数 (人)	外部資金の受入件数・人数(件・人)				科 学 研 究 費	評価 1 2 3 4 5
			治験・ 臨床試験	寄附金	受託研究 共同研究	受託実習		

5. 診療に係る総合評価

項目 診療科	内容	評価 1 2 3 4 5

資料 14 10年間の主な動向

2009年（平成21）1月から2018年（平成30）3月までの10年間に発行された弘前大学医学部附属病院広報誌『南塘だより』（53～88号）の主な記事を年次別に示す。

2009年（平成21）

- 1月：・セカンドオピニオン外来開始
・診療費のクレジットカード支払い開始
- 11月：肝疾患診療連携拠点病院に指定

2010年（平成22）

- 3月：高度救命救急センター竣工
- 4月：・新生児集中治療室（NICU）本格稼働開始
・坂田東一文部科学事務次官が附属病院を視察
- 5月：・高度救命救急センター開設記念式典開催
・放射線科科長に高井良尋就任
- 7月：ヘリポート運用開始
- 8月：がんサロン開設
- 11月：鈴木寛文部科学副大臣来院
- 12月：病理部部長に黒瀬顕就任

2011年（平成23）

- 4月：病院新体制発足（病院長：花田勝美、副病院長：水沼英樹、福田幾夫、病院長補佐：藤哲、加藤博之、砂田弘子）
- 5月：附属病院正面駐車場完成記念式典開催
- 7月：遠隔操作型内視鏡下手術システム「ダ・ヴィンチ」稼働
- 11月：検査部部長並びに感染制御センター長に萱場広之就任

2012年（平成24）

- 1月：形成外科科長に漆館聡志就任
- 4月：病院新体制発足（病院長：藤哲、副病院長：福田眞作、大熊洋揮、病院長補佐：加藤博之、澤村大輔、大山力、砂田弘子）
- 7月：腫瘍内科科長に佐藤温就任

10月：医療情報部部長に佐々木賀広就任

12月：・整形外科科長に石橋恭之就任

・ドクターカー導入

2013年（平成25）

1月：神経科精神科科長に中村和彦就任

2月：内分泌内科科長、糖尿病代謝内科科長、感染症科科長に大門眞就任

4月：・病院新体制発足（病院長：藤哲、副病院長：福田眞作、大熊洋揮、病院長補佐：加藤博之、澤村大輔、大山力、小林朱美）

・医療技術部部長に藤森明就任

7月：・臨床試験管理センター設置

・集中治療部の改修工事完了、8床から16床になる

2014年（平成26）

2月：遠隔操作型内視鏡手術システム「ダ・ヴィンチ」2台目導入

4月：・医療安全推進室長に大徳和之就任

・救急科を設置

6月：・電子カルテ導入

・山中伸一文部科学事務次官が附属病院を視察

8月：耳鼻咽喉科科長に松原篤就任

9月：院内にコンビニエンスストア（ローソン）がオープン

2015年（平成27）

4月：・救急科科長及び高度救命救急センター長に山村仁就任

・医療技術部長に塚本利明就任

・SCU（脳卒中集中治療室）稼働

・総合患者支援センター設置

・女性医師支援施設設置

9月：・基幹災害拠点病院に指定

・地域周産期母子医療センターに認定

10月：歯科口腔外科科長に小林恒就任

2016年（平成28）

1月：呼吸器内科科長に田坂定智就任

- 2月：リハビリテーション科科長に津田英一就任
 - 3月：内視鏡手術支援ロボット（ダ・ヴィンチ）手術ライセンス取得のための症例見学者受入れ開始
 - 4月：・病院新体制発足（病院長：福田眞作、副病院長：伊藤悦朗、大山力、病院長補佐：加藤博之、大門眞、石橋恭之、小林朱美）
・医療技術部部長に藤森明就任
 - 5月：診療費のコンビニエンスストア払いを導入
 - 8月：産科婦人科科長及び周産母子センター部長に横山良仁就任
- 2017年（平成29）
- 2月：・ロボットスーツ HAL 導入
・本院初の脳死下臓器提供手術実施
 - 3月：循環器内科、腎臓内科科長に富田泰史就任
 - 4月：・医療技術部長に須崎勝正就任
・総合患者支援センターに遺伝カウンセリング部門を新設
 - 7月：放射線科科長及び放射線部長に青木昌彦就任
 - 11月：薬剤部長に新岡丈典就任